

本学にて宇宙飛行士 野口聡一氏講演

中日新聞 令和4年(2022)11月21日(月)掲載

宇宙生活増す食の重要性

宇宙飛行士の野口聡一さんが二十日、瑞穂区の名古屋女子大で「宇宙での食生活」をテーマに講演した。

同大の学術分野に重ねて「管理栄養や看護は、ほぼ直接宇宙に関わる時代になっている。興味を広く持つてほしい」と呼びかけた。

野口さんは宇宙空間でハーブを育てる実験に取り組み、同大教授が地上での実験に協力した縁で登壇。ライブ映像を映した会場も含め、大学生や高校生など百二十人が聴講した。

野口さんは、県内では宇宙産業に関わる重工業や自



「宇宙での食生活」をテーマに話す野口さん＝瑞穂区の名古屋女子大で

名古屋女子大 野口聡一さん講演

自動車産業の企業がある点から「愛知は宇宙に縁が深い」と切り出した。宇宙空間に長期滞在できるように

なる中で、食事や健康管理などのソフトな分野の必要性が増していると強調した。

宇宙飛行士は、定年退職した会社員や五輪から戻ったスポーツ選手と同様、日常生活に戻った後の落差で生きづらさを感じるとの共通性を指摘。「やがてみんなが宇宙に行く。心の変化などの苦しさを今のうちから事例としてまとめておけば、あらかじめ準備できる」と語った。

聴講者からの質問にも応じ、無重力空間では、血液が地上よりも均等に体内に回るため「逆立ちした時の感覚に近い」と解説。頭の血液量が増えた時のように鼻が利きづらくなり、味を感じ取る力が落ちることから「味の認識されやすいカレーが好まれる」と説明した。

(山本拓海)